

## 視察先別報告 ザンビア

### 【シニア海外ボランティア】 リビングストーン観光協会視察

#### 概要

長期的戦略立案支援を視野に入れつつ、新しい観光商品の開発と観光関連産業の活性化や、観光業活性化を狙ったキャンペーン等の立案及び実施。観光客への情報提供サービスの充実（ソーシャル・メディア等を活用した宣伝への協力など）や、観光関連の教育機関と連携活動をねらいとする。

1

伊澤 咲弥

観光協会で働いているシニア海外ボランティアの方は着任して間もないが、リビングストンの観光事業について、熱く語られている姿が印象的だった。これまでは、観光マーケティングについて職員へご指導なさったり、日本語へ翻訳した観光情報を発信されたりしている。今後はテレビ番組やインターネットなどを通じての発信方法を考えていかれるそうだ。約20の国立公園をはじめ、51の滝など、観光名所はたくさんあるけれど、わたしたち日本人が知るザンビアの情報はとても少なく、旅行先としての地名度は低い。観光の分野は、何かを企画し、実施するとなれば時間も資金も多く要する可能性もあり、長期的な取り組みが必要かと思うが、今後どのように活動し、観光促進していくか楽しみである。

2

伊藤 葉子

視察の一環として、ビクトリアの滝を訪れた。ビクトリアの滝は世界遺産であると同時に世界三大瀑布（ばくふ）として有名だ。しかし、乾季のため、予想していたような水量はなく、11月にかけてさらに減ると聞いた。ザンビアの電力のほとんどは、水力発電により作られており、ここ2、3年電力不足による計画停電が大きな問題になっている。今後、人口増加に伴って、電力もさらに必要になってくるだろう。その際に対応できるのか。水量の減少は、異常気象によるもので、これは地球全体の問題である。また、これは、先進国が長年、自然を破壊してきた結果だと考えざるを得ない。だからこそ、私たちが国際協力を行う意味があるように感じる。

3

今田 澄子

ザンビアがこれまで観光産業を重要視してこなかったということで、この分野で日本から初の人員派遣だそうだ。迎えてくれたシニア海外ボランティアは、テンガロンハットの意気軒昂な70歳。たいていの観光客はリビングストンの滝を見て、日帰りで南アフリカや他国へ飛び去ってゆく。まずはザンビアに宿泊してもらわなくては。滝以外にも魅力的な観光資源はたくさんある。日本の若者にもどんどん来てほしい。そのためにはnetで情報を発信し…と生き生き語る姿は10も20もお若く見える。しかし、netを駆使するには20では足りない。バックアップする若い力が必要だ。それは織り込み済みだろうか？なんにしても、あの遠い国に人を呼ぶのはやはりタフな仕事ではある。



4

江口 辰之

リビングストーン観光協会にシニア海外ボランティアとして活動する宮崎さん、観光協会会長のムダレさん及びカウンターパートのコスモさんからお話を伺った。観光客はリビングストーンにビクトリアフォールを見に来るが、宿泊したり食事をする人が少なく地元にお金が落ちない。もう少し観光収入を増やし、リビングストーンを豊かにしていきたい。ザンビアと言えばビクトリアフォールだけが有名だが、ザンベジ川クルーズ・約20か所のナショナルパーク・古い教会や30年代の建物・カリバ湖・51の滝・各村の民族など魅力的な場所や民族などがたくさんある。これらを宣伝して観光客を増やしていければ良い。

5

黒川 叔乃

「2年後には、多くの学生が海外旅行でリビングストーンを訪れるようになってほしい。」シニア海外ボランティアの宮崎さんが、2年の任期で成し遂げたい想いを穏やかな笑顔で語ってくれた。そのために今は、毎日のようにリビングストンの町を歩き、発信すべきザンビアの魅力を探し続けているという。まずは自分の足で情報を入手するという地道な姿勢と、長年の経験で培った旅行業界や観光開発の専門知識は、ザンビア人の同僚にとっても良い刺激になっているようで、人材育成という観点からもシニア海外ボランティアの活動の意義を感じた。遠い国であるアフリカ・ザンビアに多くの日本人学生が訪れ、観光振興による経済効果を生み出す日が来ることを願っている。

## Republic of Zambia

- 6 河本 梨絵 カウンターパートである観光協会会長の話から、SVの宮崎さんのご経験で培われたノウハウを、リビングストンの観光振興にどう活かせるか期待されている様子が伺えた。まずは対日本への戦略ということだが、欧州と違い、物理的にも心理的にもアフリカとの距離が遠い日本に、どうアピールすることができるのか。赴任2カ月ということもあり、まだまだ模索されているように感じた。  
後に、現地スタッフだけで運営していくことを考えれば、日本向けだけでなく、汎用性のあるマーケット開発の指導が必要だろうと感じた。現地スタッフの育成など、今後のご活躍に期待したい。
- 7 高場 希恵 宮崎さんはザンビアに来る観光客は主にビクトリアフォールズを見るだけで、滞在をしてもらえないことが課題であるとおっしゃっていた。しかしザンビアには滝だけでなく、たくさんの観光資源があり、気候や治安の面でも観光に適している。宮崎さんは特に学生など若い方に来てもらいたいとおっしゃっていた。そこで宮崎さんが長年に渡る貴重な知識、ご経験から全体を統括、助言する一方で、もう一人若い世代の日本人ボランティア（青年海外協力隊など）がいればより良いのではないかと。日本の若者のニーズをキャッチするのも、ネットを使って情報発信するのも、年齢が近いほうがやりやすいと思った。  
産業が少ないザンビアにおいて、観光は、取り組み方によって非常に期待できる外貨獲得の手段となると感じた。
- 8 中里 祥子 ザンビア訪問前、ガイドブックやインターネットでザンビアの情報収集をしたが日本語での情報が極めて少なかった。日本から遠く離れたアフリカであり馴染みのない国であること、渡航者がさほど多くないことを意味していると感じた。事前情報が得にくい国は旅行先として敬遠しがちである。SV（シニア海外ボランティア）として活動されている宮崎氏は、日本へザンビアの素晴らしさを発信し、特に若者に旅をしてほしいという思いで活動されていた。SVだからこそ持っている豊富な経験とノウハウは貴重な財産である。2年後はザンビア人が自国の観光を盛り上げる姿が楽しみであり、ザンビアが日本でもっと身近な国になることを祈りたい。
- 9 花村 さくら シニア海外ボランティアの方のご活躍ぶりが素晴らしかった。日本のシニアのパワーが遠い異国で、大いに活かされているのだと分かった。日本の発展の歴史を肌で感じてきた世代が、今度は途上国で活躍しており、私もあんなパワフルなシニアになりたいと思った。観光地なので、観光客向けに土産を売る露店がたくさんあるのだが、アジアのガツガツした商人と違って、穏やかな人たちが売っていた。ヴィクトリアの滝は壮大で素晴らしかった。観光資源を活かして、リビングストンの町ももっと豊かになればと思った。
- 10 峰元 義人 視察初日、『地球の歩き方』という旅情報誌があるが、東南アジアは各国で1冊、アフリカは全部で1冊だ。心理的に距離がある」JICAザンビア事務所の野田所長はこのようにザンビアを紹介した。  
7月に赴任したばかりの宮崎隊員は「ザンビアは気候も良く、人々もおとなしい。だが現実はビクトリアの滝だけ。滞在がない。滞在してもらおうことを考える必要がある。一回訪問した方々に『ザンビアは良かった』とPRしてもらいたい」と言う。  
また、観光協会のムタレ会長は、「宮崎隊員が来てくれたお陰で色々な情報を得ることが出来るようになった」と感謝と今後の期待を込める。  
しかし、我々が泊まったリビングストンのホテルは、少なくとも衛生的なホテルとは言い難かった。滞在型を目指すなら受入体制の整備も必要である。
- 11 蓑田 竜史 シニア海外ボランティアでザンビアへ渡って来た宮崎さんの前向きさが何よりも素晴らしい。これまでフランス系の航空会社で勤務されたとのことだが、時間があればいろんなことを聞いてみたかった。最初に示されたのが、私にとっても放浪の際、頼ってしまっていることを認めざるを得ない『地球の歩き方』。旅行書のベストセラーの南部アフリカ版で割かれているザンビアのページはほんの数ページという現実。若い人に多く来てもらい、帰国後、ザンビアの情報を発信してもらいたいとの思いは大賛成。ただ、そのやり方はネットの有効利用とLCCによる格安の交通費の認知が最優先であると提案させてもらった。欧州に10万円で行ける時代。ドバイ経由などでアフリカに同程度の旅費で若者が来ることができれば、この国をより知ってもらうことができる。これも国際協力か。欧州とは異なり、アジアからの心理的距離がまだあることを克服しなければビクトリア湖の大きさも日本では乾期のままだ。